

注3

大学番号：国062

[平成30年度設置]

計画の区分：研究科の専攻の設置

注1

事前伺い

鳥取大学大学院	連合農学研究科	生産環境科学専攻
鳥取大学大学院	連合農学研究科	生命資源科学専攻
鳥取大学大学院	連合農学研究科	国際乾燥地科学専攻

注2

【事前伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人鳥取大学
平成30年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総務企画部総務企画課

職名・氏名 総務企画課長 カワムラ マサル 優

電話番号 0857-31-6745

（夜間） 0857-31-6745

FAX 0857-31-5035

e-mail ma-seisaku@ml.adm.tottori-u.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（◇◇学部（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

連合農学研究科

＜生産環境科学専攻（博士課程）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	8
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	9
5. 教員組織の状況	12
6. 留意事項等に対する履行状況等	26
7. その他全般的事項	27

＜生命資源科学専攻（博士課程）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	31
2. 授業科目の概要	35
3. 施設・設備の整備状況、経費	38
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	39
5. 教員組織の状況	42
6. 留意事項等に対する履行状況等	53
7. その他全般的事項	54

＜国際乾燥地科学専攻（博士課程）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	57
2. 授業科目の概要	61
3. 施設・設備の整備状況、経費	64
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	65
5. 教員組織の状況	68
6. 留意事項等に対する履行状況等	77
7. その他全般的事項	78

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

国立大学法人鳥取大学

(2) 大 学 名 鳥取大学

(3) 大学の位置

〒680-8550
鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(フリガナ) 氏 名 (現職就任年月)	(フリガナ) 氏 名 (現職就任年月)	
学 長	(テシマ リョウタ) 豊島 良太 (平成29年4月)		
研究科長	(マエカワ ニタロウ) 前川 二太郎 (平成25年4月)		
学科長等	(イトウ シンイチ) 伊藤 真一 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は、平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが、開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し、4年以上の場合には、欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
連合農学研究科 生産環境科学専攻 (博士課程) 博士(農学)	農学関係	3年	8人	24人	基礎となる学部等 農学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

<生産環境科学専攻>

区 分	報告年度	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平均入学定員 超 過 率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	8人	－	人	人	人	人	人	1.25 倍	
	(－)			()	()	()	()		
	[－]			[]	[]	[]	[]		
志願者数	10	－		()	()	()	()		
	(2)	(－)	()	()	()	()	()		
	[5]	[－]	[]	[]	[]	[]	[]		
受験者数	10	－		()	()	()	()		
	(2)	(－)	()	()	()	()	()		
	[5]	[－]	[]	[]	[]	[]	[]		
合格者数	10	－		()	()	()	()		
	(2)	(－)	()	()	()	()	()		
	[5]	[－]	[]	[]	[]	[]	[]		
B 入学者数	10	－		()	()	()	()		
	(2)	(－)	()	()	()	()	()		
	[5]	[－]	[]	[]	[]	[]	[]		
入学定員超過率 B/A	1.25								

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には、社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については、認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

<生産環境科学専攻>

学 年	平成30年度		平成31年度		平成32年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	10 [5] (-)	— [-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2 年次			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3 年次					[] ()	[] ()	
計	10 [5] (-)		[] ()		[] ()		

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況について、内数で記入してください。**該当がない年には「—」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

＜生産環境科学専攻＞

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数	
平成30年度	10 人	0 人	平成30年度	0 人	人	
平成31年度	人	0 人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
平成32年度	人	0 人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
			平成32年度	人	人	
合 計	10 人	0 人				

(注)・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

＜生産環境科学専攻＞

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{10} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{} \%$$

【平成32年度】

$$\frac{\text{平成32年度の退学者数(a)}}{\text{平成32年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<連合農学研究科 生産環境科学専攻>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科教員科目	農学特論Ⅰ	1前		1		1						1
	農学特論Ⅱ	1後		1			1					1
	科学コミュニケーションⅠ	1前	1			1						1
	科学コミュニケーションⅡ	2後	1			1						1
	海外実習	2前・後		1		32	26	4	4			1
専門科目	生産環境科学特論Ⅰ	2前		1		2	1					
	生産環境科学特論Ⅱ	2前	1			2	1					
	生命資源科学特論Ⅰ	2前		1								3
	生命資源科学特論Ⅱ	2前		1								3
	国際乾燥地科学特論Ⅰ	2前		1								3
	国際乾燥地科学特論Ⅱ	2前		1								3
	生産環境科学特別演習	1・2・3通	6			32	26	4	4			1
	生産環境科学特別実験	1・2前・後	2			32	26	4	4			1
	生産環境科学教育指導	3前・後		1		30	6					

【平成30年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
研究科 教員科目	農学特論Ⅰ	1前		1		2						
	農学特論Ⅱ	1後		1							2	
	科学コミュニケーションⅠ	1前	1			1					1	
	科学コミュニケーションⅡ	2後	1			1		1			2	
	海外実習	2前・後		1		38	27	5	4		2	
専門 科目	生産環境科学特論Ⅰ	2前	1			2	1					
	生産環境科学特論Ⅱ	2前		1		2	1					
	生命資源科学特論Ⅰ	2前		1							3	
	生命資源科学特論Ⅱ	2前		1							3	
	国際乾燥地科学特論Ⅰ	2前		1							3	
	国際乾燥地科学特論Ⅱ	2前		1							3	
	生産環境科学特別演習	1・2・3通	6			38	27	5	4		2	
	生産環境科学特別実験	1・2前・後	2			38	27	5	4		2	
	生産環境科学教育指導	3前・後		1		34	7					

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・「農学特論Ⅰ」及び「農学特論Ⅱ」については毎年3専攻の中から2名が各科目を担当するが、平成30年度は「農学特論Ⅰ」を生産環境科学専攻の教授2名が担当し、「農学特論Ⅱ」を生命資源科学専攻の教授1名、准教授1名が担当するため、当該科目の教員配置を変更。
- ・「生産環境科学特論Ⅰ」を必修とし、「生産環境科学特論Ⅱ」を選択科目に変更。(科目名を入れ替え)
- ・「海外実習」、「生産環境科学特別演習」及び「生産環境科学特別実験」は当該専攻の専任教員全員が担当する科目であるため、所属教員の異動に合わせて変更。
- ・「生産環境科学教育指導」は当該専攻の主指導教員資格者全員が担当する科目であるため、所属主指導教員資格者の異動に合わせて変更。

- (注) ・ 変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。
変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
- ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
5 科目	9 科目	0 科目	14 科目	5 科目 [0]	9 科目 [0]	0 科目 [0]	14 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

該当なし

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は，「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

該当なし

- (注) ・ 設置時の計画にあり，何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は，「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{14} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て，小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が，「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 その他のうち、 附属病院 51,492㎡			
	校 舎 敷 地	250,060 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	250,060 ㎡				
	運動場用地	123,946 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	123,946 ㎡				
	小 計	374,006 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	374,006 ㎡				
	そ の 他	9,321,100 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	9,321,100 ㎡				
	合 計	9,695,106 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	9,695,106 ㎡				
(2)校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 別途附属病院 72,428㎡			
		132,192 ㎡ (132,192 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	132,192 ㎡ (132,192 ㎡)				
(3)教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	連合農学研究科		
		9 室	32 室	5 室	0 室 (補助職員 0人)	0 室 (補助職員 0人)			
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数		構成大学（鳥取大学、島根大学、山口大学）		
		連合農学研究科 国際乾燥地科学専攻			29 室				
(5)図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	図書、学術雑誌及び視聴覚資料は、学部及び学科単位での特定不能なため、大学全体の数 機械・器具及び標本は連合農学研究科	
		〔うち外国書〕冊	〔うち外国書〕種	電子ジャーナル〔うち外国書〕					
		連合農学研究科国際乾燥地科学専攻	545,408 [112,964] (545,408 [112,964])	10,033 [2,521] (10,033 [2,521])	4,427 [4,427] (4,427 [4,427])	4,829 (4,829)	700 (700)		0 (0)
		計	545,408 [112,964] (545,408 [112,964])	10,033 [2,521] (10,033 [2,521])	4,427 [4,427] (4,427 [4,427])	4,829 (4,829)	700 (700)		0 (0)
(6)図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		6,014 ㎡		891		651,333			
(7)体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
		3,321 ㎡ 兼		武道場、弓道場、陸上競技場、野球場、テニスコート、ラグビー					
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	— 千円	— 千円	図書購入費	— 千円	— 千円	— 千円	
		共 同 研 究 費 等	— 千円	— 千円	設備購入費	— 千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要			—					

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（1）校地等」及び「（2）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「（5）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「（8）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大 学 の 名 称	鳥 取 大 学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
<学部>	年	人	年次 人	人		倍			
地域学部									
地域学科	4	170	-	680	学士 (地域学)	1.06	平成29年度	鳥取県鳥取市湖山町 南4丁目101番地	
地域創造コース	4	60	-	240	学士 (地域学)	1.08	平成29年度	同上	
人間形成コース	4	55	-	220	学士 (地域学)	1.07	平成29年度	同上	
国際地域文化コース	4	55	-	220	学士 (地域学)	1.05	平成29年度	同上	
地域政策学科	4	-	-	-	学士 (地域学)	-	平成16年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
地域教育学科	4	-	-	-	学士 (地域学)	-	平成16年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
地域文化学科	4	-	-	-	学士 (地域学)	-	平成16年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
地域環境学科	4	-	-	-	学士 (地域学)	-	平成16年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
医学部									
医学科	6	105	2年次 5	655	学士 (医学)	1.00	昭和24年度	鳥取県米子市西町 86番地	
生命科学科	4	40	-	160	学士 (生命科学)	1.01	平成2年度	同上	
保健学科						1.01	平成11年度	同上	
看護学専攻	4	80	3年次 2	324	学士 (看護学)	1.01	平成11年度	同上	平成28年度から3年次編入 学定員を変更
検査技術科学専攻	4	40	-	160	学士 (保健学)	1.01	平成11年度	同上	平成28年度から3年次編入 学定員を変更
工学部									
機械物理系学科	4	115	-	460	学士 (工学)	1.03	平成27年度	鳥取県鳥取市湖山町 南4丁目101番地	
電気情報系学科	4	125	-	500	学士 (工学)	1.03	平成27年度	同上	
化学バイオ系学科	4	100	-	400	学士 (工学)	1.02	平成27年度	同上	
社会システム土木系学科	4	110	-	440	学士 (工学)	1.02	平成27年度	同上	
機械工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成元年度	同上	平成27年度から学生 募集停止
知能情報工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成元年度	同上	平成27年度から学生 募集停止
電気電子工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成元年度	同上	平成27年度から学生 募集停止
物質工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成元年度	同上	平成27年度から学生 募集停止
生物応用工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成元年度	同上	平成27年度から学生 募集停止
土木工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成元年度	同上	平成27年度から学生 募集停止

社会開発システム工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成元年度	同上	平成27年度から学生募集停止
応用数理工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成7年度	同上	平成27年度から学生募集停止
農学部									
生命環境農学科	4	220	—	880	学士 (農学)	1. 02	平成29年度	鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地	
生物資源環境学科	4	—	—	—	学士 (農学)	—	平成11年度	同上	平成29年度から学生募集停止
共同獣医学科	6	35	—	210	学士 (獣医学)	1. 03	平成25年度	同上	
獣医学科	6	—	—	—	学士 (獣医学)	—	昭和24年度	同上	平成25年度から学生募集停止
<大学院>									
持続性社会創生科学研究科									
地域学専攻	2	20	—	40		0. 62	平成29年度	鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地	
地域創生コース	2	10	—	20	修士 (地域学)	0. 45	平成29年度	同上	
人間形成コース	2	10	—	20	修士 (教育学)	0. 80	平成29年度	同上	
工学専攻	2	165	—	330	修士 (工学又は学術)	1. 21	平成29年度	同上	
農学専攻	2	46	—	92	修士 (農学)	0. 97	平成29年度	同上	
国際乾燥地科学専攻	2	20	—	40	修士 (農学又は学術)	0. 97	平成29年度	同上	
地域学研究科									
地域創造専攻	2	—	—	—	修士 (地域学)	—	平成19年度	鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地	平成29年度から学生募集停止
地域教育専攻	2	—	—	—	修士 (教育学)	—	平成19年度	同上	平成29年度から学生募集停止
医学系研究科									
修士課程									平成6年度、医学研究科から名称変更
臨床心理学専攻	2	6	—	12	修士 (臨床心理学)	1. 24	平成21年度	鳥取県米子市西町86番地	
博士課程									
医学専攻	4	30	—	120	博士 (医学)	1. 04	平成16年度	同上	
博士前期課程									
生命科学専攻	2	10	—	20	修士 (生命科学)	0. 80	平成6年度	同上	平成16年度、生命科学系専攻から名称変更
機能再生医科学専攻	2	11	—	22	修士 (再生医科学)	1. 40	平成15年度	同上	
保健学専攻	2	14	—	28	修士 (保健学)	1. 10	平成16年度	同上	
博士後期課程									
生命科学専攻	3	5	—	15	博士 (生命科学)	0. 60	平成8年度	同上	平成16年度、生命科学系専攻から名称変更
機能再生医科学専攻	3	7	—	21	博士 (再生医科学)	0. 32	平成15年度	同上	
保健学専攻	3	4	—	12	博士 (保健学)	1. 50	平成20年度	同上	
工学研究科									
博士前期課程									

機械宇宙工学専攻	2	-	-	-	修士 (工学)	-	平成20年度	鳥取県鳥取市湖山町 南4丁目101番地	平成29年度から学生 募集停止
情報エレクトロニクス専攻	2	-	-	-	修士 (工学)	-	平成20年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
化学・生物応用工学専攻	2	-	-	-	修士 (工学)	-	平成20年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
社会基盤工学専攻	2	-	-	-	修士 (工学)	-	平成20年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
博士後期課程									
機械宇宙工学専攻	3	6	-	18	博士 (工学)	0.38	平成20年度	同上	
情報エレクトロニクス専攻	3	6	-	18	博士 (工学)	0.44	平成20年度	同上	
化学・生物応用工学専攻	3	4	-	12	博士 (工学)	1.08	平成20年度	同上	
社会基盤工学専攻	3	5	-	15	博士 (工学)	0.40	平成20年度	同上	
農学研究科									
修士課程									
フィールド生産科学専攻	2	-	-	-	修士 (農学)	-	平成21年度	鳥取県鳥取市湖山町 南4丁目101番地	平成29年度から学生 募集停止
生命資源科学専攻	2	-	-	-	修士 (農学)	-	平成21年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
国際乾燥地科学専攻	2	-	-	-	修士 (農学)	-	平成21年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
連合農学研究科									
博士課程									
生産環境科学専攻	3	8	-	24	博士 (農学)	1.25	平成30年度	鳥取県鳥取市湖山町 南4丁目101番地	
生命資源科学専攻	3	7	-	21	博士 (農学)	0.71	平成30年度	同上	
国際乾燥地科学専攻	3	4	-	12	博士 (農学)	0.75	平成30年度	同上	
生物生産科学専攻	3	-	-	-	博士 (農学)	-	平成元年度	同上	平成30年度から学生 募集停止
生物環境科学専攻	3	-	-	-	博士 (農学)	-	平成元年度	同上	平成30年度から学生 募集停止
生物資源科学専攻	3	-	-	-	博士 (農学)	-	平成元年度	同上	平成30年度から学生 募集停止
国際乾燥地科学専攻	3	-	-	-	博士 (農学)	-	平成21年度	同上	平成30年度から学生 募集停止

(注)・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。

・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。

※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。

※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。

・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。

・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。

・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。

・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「一」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

＜連合農学研究科 生産環境科学専攻＞

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月 ＞ 担当授業科目名
専	教授	田村 文男 (59) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	福田 善通 (58) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	許 東河 (53) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	能美 誠 (60) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	松田 敏信 (51) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	古塚 秀夫 (64) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	安延 久美 (56) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	長澤 良太 (62) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導 生産環境科学特論Ⅱ
専	教授	日置 佳之 (61) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月 ＞ 担当授業科目名
専	教授	田村 文男 (59) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	福田 善通 (58) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	許 東河 (53) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	能美 誠 (60) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	松田 敏信 (51) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	古塚 秀夫 (64) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	安延 久美 (56) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	長澤 良太 (62) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導 生産環境科学特論Ⅱ
専	教授	日置 佳之 (61) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導

【平成31年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月 ＞ 担当授業科目名

【平成32年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月 ＞ 担当授業科目名

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	児玉 基一朗 (58) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導 科学コミュニケーションⅠ 科学コミュニケーションⅡ
専	教授	山口 武視 (57) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	浅尾 俊樹 (59) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	小林 伸雄 (49) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	松本 敏一 (57) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	松本 真悟 (53) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	谷野 章 (49) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	喜多 威知郎 (59) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	伊藤 康宏 (61) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導 生産環境科学特論Ⅰ

【平成30年度】

専任・ 兼任・ の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	児玉 基一朗 (58) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導 科学コミュニケーションⅠ 科学コミュニケーションⅡ
専	教授	山口 武視 (57) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	浅尾 俊樹 (59) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	小林 伸雄 (49) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	松本 敏一 (57) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	松本 真悟 (53) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	谷野 章 (49) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	喜多 威知郎 (59) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	伊藤 康宏 (61) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導 生産環境科学特論Ⅰ

【平成31年度】

専任・ 兼任・ の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

【平成32年度】

専任・ 兼任・ の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 >
		担当授業科目名
専	教授	井上 憲一 (46) <平成30年4月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	武田 育郎 (56) <平成30年4月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	伊藤 勝久 (62) <平成30年4月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	井藤 和人 (58) <平成30年4月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	宮永 龍一 (52) <平成30年4月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	上野 誠 (40) <平成30年4月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	木原 淳一 (48) <平成30年4月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	荒西 太士 (53) <平成30年4月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	山口 啓子 (54) <平成30年4月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 >
		担当授業科目名
専	教授	井上 憲一 (46) <平成30年4月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	武田 育郎 (56) <平成30年4月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	伊藤 勝久 (62) <平成30年4月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	井藤 和人 (58) <平成30年4月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	宮永 龍一 (52) <平成30年4月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	上野 誠 (40) <平成30年4月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	木原 淳一 (48) <平成30年4月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	荒西 太士 (53) <平成30年4月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	山口 啓子 (54) <平成30年4月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導

【平成31年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 >
		担当授業科目名

【平成32年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 >
		担当授業科目名

[illegible]

専任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	山本 晴彦 (60) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	高橋 肇 (55) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導 生産環境科学特論Ⅰ
専	教授	伊藤 真一 (61) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導 農学特論Ⅰ
専	教授	竹松 葉子 (52) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導 生産環境科学特論Ⅱ
専	教授	横山 和平 (59) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	教授	松村 一善 (51) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	鶴崎 展久 (62) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	永松 大 (44) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	教授	矢島 啓 (52) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導

[illegible][illegible]

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 >
		担当授業科目名
専	准教授	万 里 (55) <平成30年 4 月> 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	准教授	藤本 高明 (46) <平成30年 4 月> 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	准教授	田中 裕之 (46) <平成30年 4 月> 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	野波 和好 (55) <平成30年 4 月> 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	片野 洋平 (43) <平成30年 4 月> 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	芳賀 弘和 (45) <平成30年 4 月> 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	中 秀司 (45) <平成30年 4 月> 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	上中 弘典 (46) <平成30年 4 月> 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 >
		担当授業科目名
専	教授	太田 勝巳 (59) <平成30年 4 月> 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	万 里 (55) <平成30年 4 月> 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	准教授	藤本 高明 (46) <平成30年 4 月> 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	准教授	田中 裕之 (46) <平成30年 4 月> 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	野波 和好 (55) <平成30年 4 月> 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	片野 洋平 (43) <平成30年 4 月> 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	芳賀 弘和 (45) <平成30年 4 月> 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	中 秀司 (45) <平成30年 4 月> 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	上中 弘典 (46) <平成30年 4 月> 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導

【平成31年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 >
		担当授業科目名

【平成32年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 >
		担当授業科目名

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	准教授	中務 明 (46) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	准教授	宗村 広昭 (42) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	准教授	石井 将幸 (49) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導 農学特論Ⅱ
専	准教授	桑原 智之 (41) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	准教授	江角 智也 (39) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	小林 和弘 (51) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	門脇 正行 (41) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	鶴永 陽子 (45) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	田中 秀幸 (34) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	准教授	中務 明 (46) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	准教授	宗村 広昭 (42) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	准教授	石井 将幸 (49) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	准教授	桑原 智之 (41) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学教育指導
専	准教授	江角 智也 (39) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	小林 和弘 (51) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	門脇 正行 (41) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	教授	鶴永 陽子 (45) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	田中 秀幸 (34) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験

【平成31年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

【平成32年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 >
		担当授業科目名
専	准教授	赤沢 克洋 (48) <平成30年 4 月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	森 佳子 (46) <平成30年 4 月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	川口 英之 (59) <平成30年 4 月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学特論Ⅰ
専	准教授	久保 満佐子 (44) <平成30年 4 月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	鈴木 美成 (39) <平成30年 4 月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	堀之内 正博 (51) <平成30年 4 月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学特論Ⅱ
専	准教授	泉 洋平 (43) <平成30年 4 月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	荒木 英樹 (43) <平成30年 4 月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	細井 栄嗣 (55) <平成30年 4 月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 >
		担当授業科目名
専	准教授	赤沢 克洋 (48) <平成30年 4 月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	森 佳子 (46) <平成30年 4 月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	川口 英之 (59) <平成30年 4 月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学特論Ⅰ
専	准教授	久保 満佐子 (44) <平成30年 4 月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	鈴木 美成 (39) <平成30年 4 月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	堀之内 正博 (51) <平成30年 4 月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 生産環境科学特論Ⅱ
専	准教授	泉 洋平 (43) <平成30年 4 月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	荒木 英樹 (43) <平成30年 4 月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	細井 栄嗣 (55) <平成30年 4 月>
		海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験

【平成31年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 >
		担当授業科目名

【平成32年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 >
		担当授業科目名

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	講師	近藤 謙介 (44) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	講師	竹村 圭弘 (35) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	講師	大崎 久美子 (39) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	講師	保永 展利 (42) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	助教	藤巻 玲路 (42) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	助教	高原 輝彦 (41) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	准教授	森本 英嗣 (44) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	准教授	池浦 博美 (38) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	講師	近藤 謙介 (44) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	講師	竹村 圭弘 (35) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	講師	大崎 久美子 (39) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	講師	保永 展利 (42) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	講師	岩永 史子 (38) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験 科学コミュニケーションⅠ
専	助教	藤巻 玲路 (42) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	助教	高原 輝彦 (41) ＜平成30年 4 月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験

【平成31年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

【平成32年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 担当授業科目名
専	助教	丹野 研一 (46) <平成30年 4 月> 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	助教	柳 由貴子 (43) <平成30年 4 月> 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
兼任	教授	執行 正義 (50) <平成30年 4 月> 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
兼任	教授	河野 強 (55) <平成30年 4 月> 生命資源科学特論Ⅰ
兼任	教授	石川 孝博 (51) <平成30年 4 月> 生命資源科学特論Ⅰ
兼任	教授	山本 達之 (55) <平成30年 4 月> 生命資源科学特論Ⅱ
兼任	教授	阿座上 弘行 (51) <平成30年 4 月> 生命資源科学特論Ⅱ
兼任	教授	猪迫 耕二 (54) <平成30年 4 月> 国際乾燥地科学特論Ⅰ

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 担当授業科目名
専	助教	柳 由貴子 (43) <平成30年 4 月> 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
専	助教	林 昌平 (37) <平成30年 4 月> 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
兼任	教授	執行 正義 (50) <平成30年 4 月> 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
兼任	教授	河野 強 (55) <平成30年 4 月> 生命資源科学特論Ⅰ
兼任	教授	石川 孝博 (51) <平成30年 4 月> 生命資源科学特論Ⅰ
兼任	教授	山本 達之 (55) <平成30年 4 月> 生命資源科学特論Ⅱ
兼任	教授	阿座上 弘行 (51) <平成30年 4 月> 生命資源科学特論Ⅱ
兼任	教授	猪迫 耕二 (54) <平成30年 4 月> 国際乾燥地科学特論Ⅰ

【平成31年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 担当授業科目名

【平成32年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 担当授業科目名

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月 ＞
		担当授業科目名
兼任	教授	緒方 英彦 (48) ＜平成30年4月＞
		国際乾燥地科学特論Ⅰ
兼任	教授	一戸 俊義 (53) ＜平成30年4月＞
		国際乾燥地科学特論Ⅱ
兼任	教授	藤巻 晴行 (48) ＜平成30年4月＞
		国際乾燥地科学特論Ⅱ
兼任	教授	會見 忠則 (51) ＜平成30年4月＞
		農学特論Ⅰ
兼任	准教授	藪田 行哲 (43) ＜平成30年4月＞
		生命資源科学特論Ⅰ
兼任	准教授	清水 英寿 (42) ＜平成30年4月＞
		生命資源科学特論Ⅱ
兼任	准教授	木村 玲二 (48) ＜平成30年4月＞
		国際乾燥地科学特論Ⅰ

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月 ＞
		担当授業科目名
兼任	教授	緒方 英彦 (48) ＜平成30年4月＞
		国際乾燥地科学特論Ⅰ
兼任	教授	一戸 俊義 (53) ＜平成30年4月＞
		国際乾燥地科学特論Ⅱ
兼任	教授	藤巻 晴行 (48) ＜平成30年4月＞
		国際乾燥地科学特論Ⅱ
兼任	教授	小林 淳 (59) ＜平成30年4月＞
		農学特論Ⅱ
兼任	教授	有馬 二郎 (43) ＜平成30年4月＞
		科学コミュニケーションⅠ
兼任	准教授	藪田 行哲 (43) ＜平成30年4月＞
		生命資源科学特論Ⅰ
兼任	准教授	清水 英寿 (42) ＜平成30年4月＞
		生命資源科学特論Ⅱ
兼任	准教授	木村 玲二 (48) ＜平成30年4月＞
		国際乾燥地科学特論Ⅰ

【平成31年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月 ＞
		担当授業科目名

【平成32年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月 ＞
		担当授業科目名

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任（予定）年月＞ 担当授業科目名
兼担	准教授	清水 克之 (46) ＜平成30年4月＞ 国際乾燥地科学特論Ⅱ
兼担	准教授	岩崎 崇 (35) ＜平成30年4月＞ 農学特論Ⅱ
兼担	助教	吉清 恵介 (38) ＜平成30年4月＞ 科学コミュニケーションⅡ

【平成30年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任（予定）年月＞ 担当授業科目名
兼担	准教授	清水 克之 (46) ＜平成30年4月＞ 国際乾燥地科学特論Ⅱ 科学コミュニケーションⅠ
兼担	准教授	岩崎 崇 (35) ＜平成30年4月＞ 農学特論Ⅱ
兼担	准教授	檀市 豊 (42) ＜平成30年4月＞ 海外実習 生産環境科学特別演習 生産環境科学特別実験
兼担	准教授	吉清 恵介 (38) ＜平成30年4月＞ 科学コミュニケーションⅡ

【平成31年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任（予定）年月＞ 担当授業科目名

【平成32年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任（予定）年月＞ 担当授業科目名

(注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼任教員を含む。）を黒字で記入してください。
 その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
 ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 ・ 専任、兼担、兼任の順に記入してください。
 ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除し、結めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・平成30年4月、専任教員として松村一善教授、鶴崎展久教授、永松大教授、矢島啓教授、太田勝巳教授、森本英嗣准教授、池浦博美准教授、岩永史子講師、林昌平助教が就任。
- ・平成30年4月、専任教員の鶴永陽子准教授が教授に昇任。
- ・平成30年4月、兼任教員として小林淳教授、有馬二郎教授、種市豊准教授が就任。
- ・平成30年4月、兼任教員の吉清恵助教が准教授に昇任。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) 一① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
4	3	4
名	名	名

- (注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) 一② 専任教員数

設 置 時 の 計 画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)
32	26	4	4	66	38	27	5	4	74	38	27	5	4	74
(38)	(27)	(5)	(4)	(74)						[6]	[1]	[1]	[0]	[8]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
36	30	0			41	33	0			41	33	0		
(41)	(33)	(0)								[5]	[3]	[0]		

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
- ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 - ・ 「**現在（報告書提出時）の完成年度時の計画**」には、「**現在（報告書提出時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) 一③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 - ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) 一④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告書提出時)の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{74}{66} = \boxed{112.12} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 一⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告書提出時)の状況(B)}} = \frac{0}{74} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	助教	丹野 研一	必修	生産環境科学特別演習	①	退職のため就任辞退（30）			
			必修	生産環境科学特別実験	①				
			選択	海外実習	①				
合計（D）			後任補充状況の集計（E）						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）	③の合計数（c）		
1	人	必修	2 科目	必修	2 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	1 科目	選択	1 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	3 科目	計	3 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合計（F）			後任補充状況の集計（G）						
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）			
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
1	人	必修	2 科目	必修	2 科目	必修	0 科目
		選択	1 科目	選択	1 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	3 科目	計	3 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-(3)合計(D)+(F)}{(2)-(2)設置時の計画(A)} = \frac{1}{66} = 1.51 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

[illegible]

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員について**に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

大学の所見…就任辞退した専任教員の担当科目にあっては、他の専任教員が当該科目を担当するため、科目の未開講がないことから、
学生への影響はない。
学生への周知方法…履修の手引きの冊子類等により周知している。

- (注)・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (〇〇年〇〇月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年 2 月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年 2 月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年 2 月)			

(注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。

・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、**当該大学に付された意見を全て記入**するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。
その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。

・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。

・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常 2 月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<連合農学研究科 生産環境科学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

鳥取大学農学部ファカルティ・ディベロップメント委員会 ※規則は別紙のとおり

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

平成30年5月以降開催予定あり

c 委員会の審議事項等

- ・ 授業改善のための基本方針及び実施体制に関する事項
- ・ 教授方法等の改善のための支援に関する事項
- ・ FDの推進・啓発を目的とした講演会及び教職員の研修等に関する事項
- ・ その他FDに関する必要な事項

② 実施状況

a 実施内容

平成30年5月以降開催予定

b 実施方法

平成30年5月以降開催予定

c 開催状況（教員の参加状況含む）

平成30年5月以降開催予定

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

平成30年5月以降開催予定

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

有（平成30年5月以降予定）

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・ 教員への結果配布、大学WEBページに公開

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置初年度における研究科の運営については概ね計画どおりであるが、設置の趣旨・目的の達成のため、課題の克服や更なる教育改善に取り組んでいくこととしたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

未定

b 公表方法

未定

③ 認証評価を受ける計画

- ・ 平成33年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受ける予定

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表（予定）の有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)

b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 (平成30年 9月 1日)

（注）・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

- ・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

鳥取大学農学部ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

平成 23 年 11 月 21 日

鳥取大学農学部規則第 7 号

(目的)

第 1 条 鳥取大学農学部（以下「本学部」という。）に、鳥取大学学則第 24 条の 3 に規定するファカルティ・ディベロップメント（本学部の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究。以下「FD」という。）を推進するため、鳥取大学農学部ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任務)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項の実施を任務とする。

- 一 授業改善のための基本方針及び実施体制に関する事項
- 二 教授方法等の改善のための支援に関する事項
- 三 FD の推進・啓発を目的とした講演会及び教職員の研修等に関する事項
- 四 その他 FD に関し必要な事項

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 教務担当副学部長
- 二 生命環境農学科及び共同獣医学科から学部長が指名した教員 各 2 人
- 三 その他学部長が必要と認めた者

(任期)

第 4 条 前条第 2 号の委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前条第 3 号の委員の任期は、学部長がその都度定める。

(委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置き、教務担当副学部長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(会議)

第 6 条 委員会は、委員の 3 分の 2 以上の出席をもって開くものとする。

2 委員会の議事は、出席した委員の 3 分の 2 以上の同意をもって決する。

3 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、その意見を聞くことができる。

(報告)

第 7 条 委員長は、授業視察・授業参観及び授業改善計画書等 FD 活動の結果を学部長に報告する。

(指導・助言)

第 8 条 学部長は、前条の報告を基に、必要に応じ、教員に教育の内容及び方法の改善について指導・助言する。

(事務)

第 9 条 委員会に関する事務は、農学部教務係において処理する。

(雑則)

第 10 条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成 23 年 11 月 21 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

国立大学法人鳥取大学

(2) 大 学 名 鳥取大学

(3) 大学の位置

〒680-8550
鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
学 長	(テシマ リョウタ) 豊島 良太 (平成29年4月)		
研究科長	(マエカワ ニタロウ) 前川 二太郎 (平成25年4月)		
専 攻 長	(イシカワ タカヒロ) 石川 孝博 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は、平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが、開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し、4年以上の場合には、欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
連合農学研究科 生命資源科学専攻 (博士課程) 博士(農学)	農学関係	3年	7人	21人	基礎となる学部等 農学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

<生命資源科学専攻>

区分	報告年度 平成30年度		平成31年度		平成32年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	7人 (-) [-]	- 人	人 () []	人	人 () []	人	0.71 倍	
志願者数	5 (-) [-]	- (-) [-]	 () []	 () []	 () []	 () []		
受験者数	5 (-) [-]	- (-) [-]	 () []	 () []	 () []	 () []		
合格者数	5 (-) [-]	- (-) [-]	 () []	 () []	 () []	 () []		
B 入学者数	5 (-) [-]	- (-) [-]	 () []	 () []	 () []	 () []		
入学定員超過率 B/A	0.71							

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には、社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については、認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象研究科等の在学者の状況

<生命資源科学専攻>

学 年	平成30年度		平成31年度		平成32年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	5 [-] (-)	— [-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2 年次			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3 年次					[] ()	[] ()	
計	5 [-] (-)		[] ()		[] ()		

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ () 内には、**留年者の状況について、内数で**記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

＜生命資源科学専攻＞

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数	
平成30年度	5 人	0 人	平成30年度	0 人	人	
平成31年度	人	0 人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
平成32年度	人	0 人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
			平成32年度	人	人	
合 計	5 人	0 人				

(注)・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
 - ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
 - ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
- (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

＜生命資源科学専攻＞

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{5} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{} \%$$

【平成32年度】

$$\frac{\text{平成32年度の退学者数(a)}}{\text{平成32年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<連合農学研究科 生命資源科学専攻>

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
研究科教員科目	農学特論Ⅰ	1前		1		1					1
	農学特論Ⅱ	1後		1			1				1
	科学コミュニケーションⅠ	1前	1						1		1
	科学コミュニケーションⅡ	2後	1						1		1
	海外実習	2前・後		1		23	12	1	4		13
専門科目	生産環境科学特論Ⅰ	2前		1							3
	生産環境科学特論Ⅱ	2前		1							3
	生命資源科学特論Ⅰ	2前		1		2	1				
	生命資源科学特論Ⅱ	2前	1			2	1				
	国際乾燥地科学特論Ⅰ	2前		1							3
	国際乾燥地科学特論Ⅱ	2前		1							3
	生命資源科学特別演習	1・2・3通	6			23	12	1	4		13
	生命資源科学特別実験	1・2前・後	2			23	12	1	4		13
	生命資源科学教育指導	3前・後		1		22	2				

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
研究科教員科目	農学特論Ⅰ	1前		1							2
	農学特論Ⅱ	1後		1		1	1				
	科学コミュニケーションⅠ	1前	1			1					3
	科学コミュニケーションⅡ	2後	1				1				1
	海外実習	2前・後		1		25	14	1	2		14
専門科目	生産環境科学特論Ⅰ	2前		1							3
	生産環境科学特論Ⅱ	2前		1							3
	生命資源科学特論Ⅰ	2前	1			2	1				
	生命資源科学特論Ⅱ	2前	1			2	1				
	国際乾燥地科学特論Ⅰ	2前		1							3
	国際乾燥地科学特論Ⅱ	2前		1							3
	生命資源科学特別演習	1・2・3通	6			25	14	1	2		14
	生命資源科学特別実験	1・2前・後	2			25	14	1	2		14
	生命資源科学教育指導	3前・後		1		23	2				

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

・「農学特論Ⅰ」及び「農学特論Ⅱ」については毎年3専攻の中から2名が各科目を担当するが、平成30年度は「農学特論Ⅰ」を生産環境科学専攻の教授2名が担当し、「農学特論Ⅱ」を生命資源科学専攻の教授1名、准教授1名が担当するため、当該科目の教員配置を変更。
 ・「生命資源科学特論Ⅰ」を必修とし、「生命資源科学特論Ⅱ」を選択科目に変更。(科目名を入れ替え)
 ・「海外実習」、「生命資源科学特別演習」及び「生命資源科学特別実験」は当該専攻の専任教員全員が担当する科目であるため、所属教員の異動に合わせて変更。
 ・「生命資源科学教育指導」は当該専攻の主指導教員資格者全員が担当する科目であるため、所属主指導教員資格者の異動に合わせて変更。

- (注) ・ 変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
5 科目	9 科目	0 科目	14 科目	5 科目 [0]	9 科目 [0]	0 科目 [0]	14 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

該当なし

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は，「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

該当なし

- (注) ・ 設置時の計画にあり，何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は，「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし
--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（3）と廃止科目（4）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（A）}} = \frac{0}{14} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て，小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が，「（3）未開講科目」と「（4）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容					備考		
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 その他のうち、 附属病院 51,492㎡			
	校 舎 敷 地	250,060 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	250,060 ㎡				
	運動場用地	123,946 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	123,946 ㎡				
	小 計	374,006 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	374,006 ㎡				
	そ の 他	9,321,100 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	9,321,100 ㎡				
	合 計	9,695,106 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	9,695,106 ㎡				
(2)校舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 別途附属病院 72,428㎡			
		132,192 ㎡ (132,192 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	132,192 ㎡ (132,192 ㎡)				
(3)教室等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	連合農学研究科		
		9 室	32 室	5 室	0 室 (補助職員 0人)	0 室 (補助職員 0人)			
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数		構成大学（鳥取大学、島根大学、山口大学）		
		連合農学研究科 生命資源科学専攻			42 室				
(5)図書・設備	新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	図書、学術雑誌及び視 聴覚資料は、学部及び 学科単位での特定不能 なため、大学全体の数 機械・器具及び標本は 連合農学研究科	
		〔うち外国書〕 冊	〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点					
		連合農学研究科 生命資源科学 専攻	545,408 [112,964] (545,408 [112,964])	10,033 [2,521] (10,033 [2,521])	4,427 [4,427] (4,427 [4,427])	4,829 (4,829)	700 (700)		0 (0)
		計	545,408 [112,964] (545,408 [112,964])	10,033 [2,521] (10,033 [2,521])	4,427 [4,427] (4,427 [4,427])	4,829 (4,829)	700 (700)		0 (0)
(6)図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		6,014 ㎡		891		651,333			
(7)体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
		3,321 ㎡ 兼		武道場、弓道場、陸上競技場、野球場、テニスコート、ラグビー					
(8)経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見 積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	— 千円	— 千円	図書購入費	— 千円	— 千円	— 千円	
		共 同 研 究 費 等	— 千円	— 千円	設備購入費	— 千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当 り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		—						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（1）校地等」及び「（2）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「（5）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「（8）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学 学 校 名 称	鳥 取 大 学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
<学部>	年	人	年次 人	人		倍			
地域学部									
地域学科	4	170	-	680	学士 (地域学)	1.06	平成29年度	鳥取県鳥取市湖山町 南4丁目101番地	
地域創造コース	4	60	-	240	学士 (地域学)	1.08	平成29年度	同上	
人間形成コース	4	55	-	220	学士 (地域学)	1.07	平成29年度	同上	
国際地域文化コース	4	55	-	220	学士 (地域学)	1.05	平成29年度	同上	
地域政策学科	4	-	-	-	学士 (地域学)	-	平成16年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
地域教育学科	4	-	-	-	学士 (地域学)	-	平成16年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
地域文化学科	4	-	-	-	学士 (地域学)	-	平成16年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
地域環境学科	4	-	-	-	学士 (地域学)	-	平成16年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
医学部									
医学科	6	105	2年次 5	655	学士 (医学)	1.00	昭和24年度	鳥取県米子市西町 86番地	
生命科学科	4	40	-	160	学士 (生命科学)	1.01	平成2年度	同上	
保健学科						1.01	平成11年度	同上	
看護学専攻	4	80	3年次 2	324	学士 (看護学)	1.01	平成11年度	同上	平成28年度から3年次編入 学定員を変更
検査技術科学専攻	4	40	-	160	学士 (保健学)	1.01	平成11年度	同上	平成28年度から3年次編入 学定員を変更
工学部									
機械物理系学科	4	115	-	460	学士 (工学)	1.03	平成27年度	鳥取県鳥取市湖山町 南4丁目101番地	
電気情報系学科	4	125	-	500	学士 (工学)	1.03	平成27年度	同上	
化学バイオ系学科	4	100	-	400	学士 (工学)	1.02	平成27年度	同上	
社会システム土木系学科	4	110	-	440	学士 (工学)	1.02	平成27年度	同上	
機械工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成元年度	同上	平成27年度から学生 募集停止
知能情報工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成元年度	同上	平成27年度から学生 募集停止
電気電子工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成元年度	同上	平成27年度から学生 募集停止
物質工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成元年度	同上	平成27年度から学生 募集停止
生物応用工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成元年度	同上	平成27年度から学生 募集停止
土木工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成元年度	同上	平成27年度から学生 募集停止

社会開発システム工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成元年度	同上	平成27年度から学生募集停止
応用数理工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成7年度	同上	平成27年度から学生募集停止
農学部									
生命環境農学科	4	220	—	880	学士 (農学)	1. 02	平成29年度	鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地	平成29年度から学生募集停止
生物資源環境学科	4	—	—	—	学士 (農学)	—	平成11年度	同上	平成29年度から学生募集停止
共同獣医学科	6	35	—	210	学士 (獣医学)	1. 03	平成25年度	同上	平成25年度から学生募集停止
獣医学科	6	—	—	—	学士 (獣医学)	—	昭和24年度	同上	平成25年度から学生募集停止
<大学院>									
持続性社会創生科学研究科									
地域学専攻	2	20	—	40		0. 62	平成29年度	鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地	
地域創生コース	2	10	—	20	修士 (地域学)	0. 45	平成29年度	同上	
人間形成コース	2	10	—	20	修士 (教育学)	0. 80	平成29年度	同上	
工学専攻	2	165	—	330	修士 (工学又は学術)	1. 21	平成29年度	同上	
農学専攻	2	46	—	92	修士 (農学)	0. 97	平成29年度	同上	
国際乾燥地科学専攻	2	20	—	40	修士 (農学又は学術)	0. 97	平成29年度	同上	
地域学研究科									
地域創造専攻	2	—	—	—	修士 (地域学)	—	平成19年度	鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地	平成29年度から学生募集停止
地域教育専攻	2	—	—	—	修士 (教育学)	—	平成19年度	同上	平成29年度から学生募集停止
医学系研究科									
修士課程									平成6年度、医学研究科から名称変更
臨床心理学専攻	2	6	—	12	修士 (臨床心理学)	1. 24	平成21年度	鳥取県米子市西町86番地	
博士課程									
医学専攻	4	30	—	120	博士 (医学)	1. 04	平成16年度	同上	
博士前期課程									
生命科学専攻	2	10	—	20	修士 (生命科学)	0. 80	平成6年度	同上	平成16年度、生命科学系専攻から名称変更
機能再生医科学専攻	2	11	—	22	修士 (再生医科学)	1. 40	平成15年度	同上	
保健学専攻	2	14	—	28	修士 (保健学)	1. 10	平成16年度	同上	
博士後期課程									
生命科学専攻	3	5	—	15	博士 (生命科学)	0. 60	平成8年度	同上	平成16年度、生命科学系専攻から名称変更
機能再生医科学専攻	3	7	—	21	博士 (再生医科学)	0. 32	平成15年度	同上	
保健学専攻	3	4	—	12	博士 (保健学)	1. 50	平成20年度	同上	
工学研究科									
博士前期課程									

機械宇宙工学専攻	2	-	-	-	修士 (工学)	-	平成20年度	鳥取県鳥取市湖山町 南4丁目101番地	平成29年度から学生 募集停止
情報エレクトロニクス専攻	2	-	-	-	修士 (工学)	-	平成20年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
化学・生物応用工学専攻	2	-	-	-	修士 (工学)	-	平成20年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
社会基盤工学専攻	2	-	-	-	修士 (工学)	-	平成20年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
博士後期課程									
機械宇宙工学専攻	3	6	-	18	博士 (工学)	0.38	平成20年度	同上	
情報エレクトロニクス専攻	3	6	-	18	博士 (工学)	0.44	平成20年度	同上	
化学・生物応用工学専攻	3	4	-	12	博士 (工学)	1.08	平成20年度	同上	
社会基盤工学専攻	3	5	-	15	博士 (工学)	0.40	平成20年度	同上	
農学研究科									
修士課程									
フィールド生産科学専攻	2	-	-	-	修士 (農学)	-	平成21年度	鳥取県鳥取市湖山町 南4丁目101番地	平成29年度から学生 募集停止
生命資源科学専攻	2	-	-	-	修士 (農学)	-	平成21年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
国際乾燥地科学専攻	2	-	-	-	修士 (農学)	-	平成21年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
連合農学研究科									
博士課程									
生産環境科学専攻	3	8	-	24	博士 (農学)	1.25	平成30年度	鳥取県鳥取市湖山町 南4丁目101番地	
生命資源科学専攻	3	7	-	21	博士 (農学)	0.71	平成30年度	同上	
国際乾燥地科学専攻	3	4	-	12	博士 (農学)	0.75	平成30年度	同上	
生物生産科学専攻	3	-	-	-	博士 (農学)	-	平成元年度	同上	平成30年度から学生 募集停止
生物環境科学専攻	3	-	-	-	博士 (農学)	-	平成元年度	同上	平成30年度から学生 募集停止
生物資源科学専攻	3	-	-	-	博士 (農学)	-	平成元年度	同上	平成30年度から学生 募集停止
国際乾燥地科学専攻	3	-	-	-	博士 (農学)	-	平成21年度	同上	平成30年度から学生 募集停止

- (注)・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「一」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

＜連合農学研究科 生命資源科学専攻＞

(1) ー① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 担当授業科目名
専	教授	會見 忠則 (51) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導 農学特論Ⅰ
専	教授	中桐 昭 (61) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	前川 二太郎 (63) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	霜村 典宏 (53) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	松本 晃幸 (64) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	東 政明 (61) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	小杉 昭彦 (48) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	石原 亨 (51) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	渡辺 文雄 () <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 担当授業科目名
専	教授	會見 忠則 (51) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	中桐 昭 (61) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	前川 二太郎 (63) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	霜村 典宏 (53) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	松本 晃幸 (64) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	東 政明 (61) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	小杉 昭彦 (48) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	石原 亨 (51) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	渡辺 文雄 () <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導

【平成31年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 担当授業科目名

【平成32年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 担当授業科目名

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 >
		担当授業科目名
専	教授	一柳 剛 (47) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	河野 強 (55) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導 生命資源科学特論 I
専	教授	川向 誠 (59) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	中川 強 (56) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	松崎 貴 (56) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	石川 孝博 (51) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導 生命資源科学特論 I
専	教授	赤間 一仁 (56) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	西川 彰男 (59) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	横田 一成 (62) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 >
		担当授業科目名
専	教授	一柳 剛 (47) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	河野 強 (55) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導 生命資源科学特論 I
専	教授	川向 誠 (59) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	中川 強 (56) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	松崎 貴 (56) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	石川 孝博 (51) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導 生命資源科学特論 I
専	教授	赤間 一仁 (56) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	西川 彰男 (59) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	横田 一成 (62) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導

【平成31年度】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 >
		担当授業科目名

【平成32年度】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 >
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	山本 達之 (55) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導 生命資源科学特論Ⅱ
専	教授	佐藤 利夫 (63) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	林 蘇娟 (60) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
専	教授	真野 純一 (58) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	阿座上 弘行 (51) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導 生命資源科学特論Ⅱ
専	准教授	有馬 二郎 (43) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	准教授	早乙女 梢 (36) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	山本 達之 (55) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導 生命資源科学特論Ⅱ
専	教授	林 蘇娟 (60) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
専	教授	真野 純一 (58) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	阿座上 弘行 (51) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導 生命資源科学特論Ⅱ
専	教授	田村 純一 (56) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	塩月 孝博 (55) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	教授	有馬 二郎 (43) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導 科学コミュニケーションⅠ
専	准教授	早乙女 梢 (36) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験

[illegible][illegible]

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 >
		担当授業科目名
専	准教授	岡 真理子 (48) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
専	准教授	岩崎 崇 (35) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 農学特論Ⅱ
専	准教授	数田 行哲 (43) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学特論Ⅰ
専	准教授	清水 英寿 (42) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導 生命資源科学特論Ⅱ
専	准教授	戒能 智宏 (44) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
専	准教授	児玉 有紀 (36) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
専	准教授	秋吉 英雄 (63) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
専	准教授	丸田 隆典 (37) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
専	准教授	舞木 昭彦 (37) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
専	准教授	地阪 光生 (54) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 >
		担当授業科目名
専	准教授	岡 真理子 (48) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
専	准教授	岩崎 崇 (35) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 農学特論Ⅱ
専	准教授	数田 行哲 (43) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学特論Ⅰ
専	准教授	清水 英寿 (42) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導 生命資源科学特論Ⅱ
専	准教授	戒能 智宏 (44) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
専	准教授	児玉 有紀 (36) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
専	准教授	秋吉 英雄 (63) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
専	准教授	丸田 隆典 (37) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 生命資源科学教育指導
専	准教授	舞木 昭彦 (37) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
専	准教授	地阪 光生 (54) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験

【平成31年度】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 >
		担当授業科目名

【平成32年度】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 >
		担当授業科目名

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 担当授業科目名
専	講師	上野 琴巳 (37) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
専	助教	松尾 安浩 (42) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
専	助教	古田 賢次郎 (38) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
専	助教	吉清 恵介 (38) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 科学コミュニケーションⅡ
専	助教	西村 浩二 (49) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
兼任	教授	小林 淳 (59) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
兼任	教授	内海 俊彦 (61) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
兼任	教授	山田 守 (63) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 担当授業科目名
専	准教授	小川 貴央 (39) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
専	講師	上野 琴巳 (37) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
専	助教	松尾 安浩 (42) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
専	助教	古田 賢次郎 (38) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
専	准教授	吉清 恵介 (38) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 科学コミュニケーションⅡ
専	准教授	西村 浩二 (49) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
兼任	教授	小林 淳 (59) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験 農学特論Ⅱ
兼任	教授	内海 俊彦 (61) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
兼任	教授	山田 守 (63) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験

【平成31年度】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 担当授業科目名

【平成32年度】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 担当授業科目名

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 >
		担当授業科目名
兼任	教授	小崎 紳一 (53) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
兼任	教授	赤壁 善彦 (52) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
兼任	教授	松井 健二 (56) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
兼任	教授	宮田 浩文 (57) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
兼任	教授	伊藤 康宏 (61) <平成30年 4 月>
		生産環境科学特論 I
兼任	教授	高橋 肇 (55) <平成30年 4 月>
		生産環境科学特論 I
兼任	教授	長澤 良太 (62) <平成30年 4 月>
		生産環境科学特論 II
兼任	教授	竹松 葉子 (52) <平成30年 4 月>
		生産環境科学特論 II
兼任	教授	猪迫 耕二 (54) <平成30年 4 月>
		国際乾燥地科学特論 I
兼任	教授	緒方 英彦 (48) <平成30年 4 月>
		国際乾燥地科学特論 I

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 >
		担当授業科目名
兼任	教授	小崎 紳一 (53) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
兼任	教授	赤壁 善彦 (52) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
兼任	教授	松井 健二 (56) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
兼任	教授	宮田 浩文 (57) <平成30年 4 月>
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
兼任	教授	伊藤 康宏 (61) <平成30年 4 月>
		生産環境科学特論 I
兼任	教授	高橋 肇 (55) <平成30年 4 月>
		生産環境科学特論 I
兼任	教授	長澤 良太 (62) <平成30年 4 月>
		生産環境科学特論 II
兼任	教授	竹松 葉子 (52) <平成30年 4 月>
		生産環境科学特論 II
兼任	教授	猪迫 耕二 (54) <平成30年 4 月>
		国際乾燥地科学特論 I
兼任	教授	緒方 英彦 (48) <平成30年 4 月>
		国際乾燥地科学特論 I

【平成31年度】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 >
		担当授業科目名

【平成32年度】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 >
		担当授業科目名

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
兼任	教授	一戸 俊義 (53) ＜平成30年4月＞
		国際乾燥地科学特論Ⅱ
兼任	教授	藤巻 晴行 (48) ＜平成30年4月＞
		国際乾燥地科学特論Ⅱ
兼任	教授	伊藤 真一 (61) ＜平成30年4月＞
		農学特論Ⅰ
兼任	教授	児玉 基一郎 (58) ＜平成30年4月＞
		科学コミュニケーションⅠ 科学コミュニケーションⅡ
兼任	准教授	藤井 克彦 (47) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
兼任	准教授	薬師 寿治 (47) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
兼任	准教授	井内 良仁 (50) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
兼任	准教授	木股 洋子 (51) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
兼任	教授	一戸 俊義 (53) ＜平成30年4月＞
		国際乾燥地科学特論Ⅱ
兼任	教授	藤巻 晴行 (48) ＜平成30年4月＞
		国際乾燥地科学特論Ⅱ
兼任	教授	伊藤 真一 (61) ＜平成30年4月＞
		農学特論Ⅰ
兼任	教授	児玉 基一郎 (58) ＜平成30年4月＞
		科学コミュニケーションⅠ 科学コミュニケーションⅡ
兼任	教授	井上 憲一 (46) ＜平成30年4月＞
		農学特論Ⅰ
兼任	准教授	藤井 克彦 (47) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
兼任	准教授	薬師 寿治 (47) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
兼任	准教授	井内 良仁 (50) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
兼任	准教授	木股 洋子 (51) ＜平成30年4月＞
		海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験

【平成31年度】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

【平成32年度】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 担当授業科目名
兼任	准教授	川口 英之 (59) <平成30年 4 月> 生産環境科学特論Ⅰ
兼任	准教授	堀之内 正博 (51) <平成30年 4 月> 生産環境科学特論Ⅱ
兼任	准教授	木村 玲二 (48) <平成30年 4 月> 国際乾燥地科学特論Ⅰ
兼任	准教授	清水 克之 (46) <平成30年 4 月> 国際乾燥地科学特論Ⅱ
兼任	准教授	宗村 広昭 (42) <平成30年 4 月> 農学特論Ⅱ
兼任	助教	高坂 智之 (42) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
兼任	助教	肥塚 崇男 (40) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 担当授業科目名
兼任	准教授	川口 英之 (59) <平成30年 4 月> 生産環境科学特論Ⅰ
兼任	准教授	堀之内 正博 (51) <平成30年 4 月> 生産環境科学特論Ⅱ
兼任	准教授	木村 玲二 (48) <平成30年 4 月> 国際乾燥地科学特論Ⅰ
兼任	准教授	清水 克之 (46) <平成30年 4 月> 国際乾燥地科学特論Ⅱ 科学コミュニケーションⅠ
兼任	講師	岩永 史子 (38) <平成30年 4 月> 科学コミュニケーションⅠ
兼任	助教	高坂 智之 (42) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
兼任	助教	肥塚 崇男 (40) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験
兼任	助教	片岡 尚也 (33) <平成30年 4 月> 海外実習 生命資源科学特別演習 生命資源科学特別実験

【平成31年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 担当授業科目名

【平成32年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 担当授業科目名

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
- ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
- ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
- ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・平成30年4月、専任教員の有馬二郎准教授が教授に昇任。
- ・平成30年4月、専任教員の吉清恵介助教、西村浩二助教が准教授に昇任。
- ・平成30年4月、専任教員として田村純一教授、塩月孝博教授、小川貴央准教授が就任。
- ・平成30年4月、兼担教員として井上憲一教授、岩永史子講師、片岡尚也助教が就任。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、**大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）**を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) 一① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
4	3	4
名	名	名

- (注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) 一② 専任教員数

設 置 時 の 計 画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)
23	12	1	4	40	25	14	1	2	42	25	14	1	2	42
(25)	(14)	(1)	(2)	(42)						[2]	[2]	[0]	[Δ2]	[2]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数				
24	16	0		25	18	0		25	18	0				
(25)	(18)	(0)						[1]	[2]	[0]				

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
- ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 - ・ 「**現在（報告書提出時）の完成年度時の計画**」には、「**現在（報告書提出時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) 一③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告書提出時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 - ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) 一④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{42}{40} = \boxed{105} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 一⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況（B）}} = \frac{0}{42} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別		担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	教授	佐藤 利夫	必修		生命資源科学特別演習	①	国際乾燥地科学専攻に所属変更のため就任辞退（30）						
			必修		生命資源科学特別実験	①							
			必修		生命資源科学教育指導	①							
			選択		海外実習	①							
合計（D）						後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
1	人	必修	3	科目	必修	3	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	4	科目	計	4	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）			
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
1	人	必修	3 科目	必修	3 科目	必修	0 科目
		選択	1 科目	選択	1 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	4 科目	計	4 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{1}{40} = 2.5 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

[illegible]

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員について**に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までには専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

大学の所見…就任辞退した専任教員の担当科目にあっては、他の専任教員が当該科目を担当するため、科目の未開講がないことから、学生への影響はない。

学生への周知方法…履修の手引きの冊子類等により周知している。

- (注)・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (〇〇年〇〇月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年 2 月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年 2 月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年 2 月)			

(注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。

・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、**当該大学に付された意見を全て記入**するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。
その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。

・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。

・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常 2 月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

＜連合農学研究科 生命資源科学専攻＞

（１）設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

（注）・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

（２）教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

鳥取大学農学部ファカルティ・ディベロップメント委員会 ※規則は別紙のとおり

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

平成30年5月以降開催予定あり

c 委員会の審議事項等

- ・授業改善のための基本方針及び実施体制に関する事項
- ・教授方法等の改善のための支援に関する事項
- ・FDの推進・啓発を目的とした講演会及び教職員の研修等に関する事項
- ・その他FDに関する必要な事項

② 実施状況

a 実施内容

平成30年5月以降開催予定

b 実施方法

平成30年5月以降開催予定

c 開催状況（教員の参加状況含む）

平成30年5月以降開催予定

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

平成30年5月以降開催予定

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

有（平成30年5月以降予定）

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・教員への結果配布、大学WEBページに公開

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（３）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置初年度における研究科の運営については概ね計画どおりであるが、設置の趣旨・目的の達成のため、課題の克服や更なる教育改善に取り組んでいくこととしたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

未定

b 公表方法

未定

③ 認証評価を受ける計画

- ・ 平成33年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受ける予定

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（4）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表（予定）の有無 （ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 （ 平成30年 9月 1日 ）

（注）・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

- ・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

鳥取大学農学部ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

平成 23 年 11 月 21 日

鳥取大学農学部規則第 7 号

(目的)

第 1 条 鳥取大学農学部（以下「本学部」という。）に、鳥取大学学則第 24 条の 3 に規定するファカルティ・ディベロップメント（本学部の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究。以下「FD」という。）を推進するため、鳥取大学農学部ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任務)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項の実施を任務とする。

- 一 授業改善のための基本方針及び実施体制に関する事項
- 二 教授方法等の改善のための支援に関する事項
- 三 FD の推進・啓発を目的とした講演会及び教職員の研修等に関する事項
- 四 その他 FD に関し必要な事項

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 教務担当副学部長
- 二 生命環境農学科及び共同獣医学科から学部長が指名した教員 各 2 人
- 三 その他学部長が必要と認めた者

(任期)

第 4 条 前条第 2 号の委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前条第 3 号の委員の任期は、学部長がその都度定める。

(委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置き、教務担当副学部長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(会議)

第 6 条 委員会は、委員の 3 分の 2 以上の出席をもって開くものとする。

2 委員会の議事は、出席した委員の 3 分の 2 以上の同意をもって決する。

3 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、その意見を聞くことができる。

(報告)

第 7 条 委員長は、授業視察・授業参観及び授業改善計画書等 FD 活動の結果を学部長に報告する。

(指導・助言)

第 8 条 学部長は、前条の報告を基に、必要に応じ、教員に教育の内容及び方法の改善について指導・助言する。

(事務)

第 9 条 委員会に関する事務は、農学部教務係において処理する。

(雑則)

第 10 条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成 23 年 11 月 21 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

国立大学法人鳥取大学

(2) 大 学 名

鳥取大学

(3) 大学の位置

〒680-8550

鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
学 長	(テシマ リョウタ) 豊島 良太 (平成29年4月)		
研究科長	(マエカワ ニタロウ) 前川 二太郎 (平成25年4月)		
専 攻 長	(フジマキ ハルユキ) 藤巻 晴行 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は、平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが、開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し、4年以上の場合には、欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
連合農学研究科 国際乾燥地科学専攻 (博士課程) 博士(農学)	農学関係	3年	4人	12人	基礎となる学部等 農学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

<国際乾燥地科学専攻>

報告年度 区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	4人 (-) [-]	- 人	人 () []	人	人 () []	人	0.75 倍	
志願者数	3 (1) [1]	- (-) [-]	 () []	 () []	 () []	 () []		
受験者数	3 (1) [1]	- (-) [-]	 () []	 () []	 () []	 () []		
合格者数	3 (1) [1]	- (-) [-]	 () []	 () []	 () []	 () []		
B 入学者数	3 (1) [1]	- (-) [-]	 () []	 () []	 () []	 () []		
入学定員超過率 B/A	0.75							

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には、社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については、認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。
 なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

<国際乾燥地科学専攻>

学 年	平成30年度		平成31年度		平成32年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	3 [1] (-)	— [-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2 年次			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3 年次					[] ()	[] ()	
計	3 [1] (-)		[] ()		[] ()		

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ () 内には、**留年者の状況について、内数で記入してください**。該当がない年には「—」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

＜国際乾燥地科学専攻＞

区 分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内 訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数	
平成30年度	3 人	0 人	平成30年度	0 人	人	
平成31年度	人	0 人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
平成32年度	人	0 人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
			平成32年度	人	人	
合 計	3 人	0 人				

(注)・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例) ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) 一⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

＜国際乾燥地科学専攻＞

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{3} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{} \%$$

【平成32年度】

$$\frac{\text{平成32年度の退学者数(a)}}{\text{平成32年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<連合農学研究科 国際乾燥地科学専攻>

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
研 究 科 教 員 科 目	農学特論Ⅰ	1前		1		1					1
	農学特論Ⅱ	1後		1			1				1
	科学コミュニケーションⅠ	1前	1								2
	科学コミュニケーションⅡ	2後	1								2
	海外実習	2前・後		1		13	12		3		
専 門 科 目	生産環境科学特論Ⅰ	2前		1							3
	生産環境科学特論Ⅱ	2前		1							3
	生命資源科学特論Ⅰ	2前		1							3
	生命資源科学特論Ⅱ	2前		1							3
	国際乾燥地科学特論Ⅰ	2前		1		2	1				
	国際乾燥地科学特論Ⅱ	2前	1			2	1				
	国際乾燥地科学特別演習	1・2・3通	6			13	12		3		
	国際乾燥地科学特別実験	1・2前・後	2			13	12		3		
	国際乾燥地科学教育指導	3前・後		1		11	4				

【平成30年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
研 究 科 教 員 科 目	農学特論Ⅰ	1前		1							2
	農学特論Ⅱ	1後		1							2
	科学コミュニケーションⅠ	1前	1				1				3
	科学コミュニケーションⅡ	2後	1								2
	海外実習	2前・後		1		14	13		2		1
専 門 科 目	生産環境科学特論Ⅰ	2前		1							3
	生産環境科学特論Ⅱ	2前		1							3
	生命資源科学特論Ⅰ	2前		1							3
	生命資源科学特論Ⅱ	2前		1							3
	国際乾燥地科学特論Ⅰ	2前	1			2	1				
	国際乾燥地科学特論Ⅱ	2前	1			2	1				
	国際乾燥地科学特別演習	1・2・3通	6			14	13		2		1
	国際乾燥地科学特別実験	1・2前・後	2			14	13		2		1
	国際乾燥地科学教育指導	3前・後		1		14	5				

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

・「農学特論Ⅰ」及び「農学特論Ⅱ」については、3専攻の中から毎年各科目2名が担当するが、平成30年度は「農学特論Ⅰ」を生産環境科学専攻の教授2名が担当し、「農学特論Ⅱ」を生命資源科学専攻の教授1名、准教授1名が担当するため、当該科目の教員配置を変更。
 ・「国際乾燥地科学特論Ⅰ」を必修とし、「国際乾燥地科学特論Ⅱ」を選択科目に変更。(科目名を入れ替え)
 ・「海外実習」、「国際乾燥地科学特別演習」及び「国際乾燥地科学特別実験」は当該専攻の専任教員全員が担当する科目であるため、所属教員の異動に合わせて変更。
 ・「国際乾燥地科学教育指導」は当該専攻の主指導教員資格者全員が担当する科目であるため、所属主指導教員資格者の異動に合わせて変更。

- (注) ・ 変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
5 科目	9 科目	0 科目	14 科目	5 科目 [0]	9 科目 [0]	0 科目 [0]	14 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

該当なし

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は，「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

該当なし

- (注) ・ 設置時の計画にあり，何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は，「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（3）と廃止科目（4）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（A）}} = \frac{0}{14} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て，小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が，「（3）未開講科目」と「（4）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考						
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 その他のうち、 附属病院 51,492㎡						
	校 舎 敷 地	250,060 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	250,060 ㎡							
	運動場用地	123,946 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	123,946 ㎡							
	小 計	374,006 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	374,006 ㎡							
	そ の 他	9,321,100 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	9,321,100 ㎡							
	合 計	9,695,106 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	9,695,106 ㎡							
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 別途附属病院 72,428㎡						
		132,192 ㎡ (132,192 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	132,192 ㎡ (132,192 ㎡)							
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	連合農学研究科					
		9 室	32 室	5 室	0 室 (補助職員 0人)	0 室 (補助職員 0人)						
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数		構成大学（鳥取大学、島根大学、山口大学）					
		連合農学研究科 生産環境科学専攻			74 室							
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	図書、学術雑誌及び視聴覚資料は、学部及び学科単位での特定不能なため、大学全体の数 機械・器具及び標本は連合農学研究科				
		〔うち外国書〕 冊	〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点								
		連合農学研究科 生産環境科学 専攻	545,408 [112,964] (545,408 [112,964])	10,033 [2,521] (10,033 [2,521])					4,427 [4,427] (4,427 [4,427])	4,829 (4,829)	700 (700)	0 (0)
		計	545,408 [112,964] (545,408 [112,964])	10,033 [2,521] (10,033 [2,521])					4,427 [4,427] (4,427 [4,427])	4,829 (4,829)	700 (700)	0 (0)
(6) 図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体				
		6,014 ㎡		891		651,333						
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体				
		3,321 ㎡ 兼		武道場、弓道場、陸上競技場、野球場、テニスコート、ラグビー								
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度				
		教員1人当たり研究費等	— 千円	— 千円	図書購入費	— 千円	— 千円	— 千円				
		共 同 研 究 費 等	— 千円	— 千円	設備購入費	— 千円	— 千円	— 千円				
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次					
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円					
	学生納付金以外の維持方法の概要			—								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（1）校地等」及び「（2）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「（5）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「（8）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大 学 の 名 称	鳥 取 大 学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
<学部>	年	人	年次 人	人		倍			
地域学部									
地域学科	4	170	-	680	学士 (地域学)	1.06	平成29年度	鳥取県鳥取市湖山町 南4丁目101番地	
地域創造コース	4	60	-	240	学士 (地域学)	1.08	平成29年度	同上	
人間形成コース	4	55	-	220	学士 (地域学)	1.07	平成29年度	同上	
国際地域文化コース	4	55	-	220	学士 (地域学)	1.05	平成29年度	同上	
地域政策学科	4	-	-	-	学士 (地域学)	-	平成16年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
地域教育学科	4	-	-	-	学士 (地域学)	-	平成16年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
地域文化学科	4	-	-	-	学士 (地域学)	-	平成16年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
地域環境学科	4	-	-	-	学士 (地域学)	-	平成16年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
医学部									
医学科	6	105	2年次 5	655	学士 (医学)	1.00	昭和24年度	鳥取県米子市西町 86番地	
生命科学科	4	40	-	160	学士 (生命科学)	1.01	平成2年度	同上	
保健学科						1.01	平成11年度	同上	
看護学専攻	4	80	3年次 2	324	学士 (看護学)	1.01	平成11年度	同上	平成28年度から3年次編入 学定員を変更
検査技術科学専攻	4	40	-	160	学士 (保健学)	1.01	平成11年度	同上	平成28年度から3年次編入 学定員を変更
工学部									
機械物理系学科	4	115	-	460	学士 (工学)	1.03	平成27年度	鳥取県鳥取市湖山町 南4丁目101番地	
電気情報系学科	4	125	-	500	学士 (工学)	1.03	平成27年度	同上	
化学バイオ系学科	4	100	-	400	学士 (工学)	1.02	平成27年度	同上	
社会システム土木系学科	4	110	-	440	学士 (工学)	1.02	平成27年度	同上	
機械工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成元年度	同上	平成27年度から学生 募集停止
知能情報工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成元年度	同上	平成27年度から学生 募集停止
電気電子工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成元年度	同上	平成27年度から学生 募集停止
物質工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成元年度	同上	平成27年度から学生 募集停止
生物応用工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成元年度	同上	平成27年度から学生 募集停止
土木工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成元年度	同上	平成27年度から学生 募集停止

社会開発システム工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成元年度	同上	平成27年度から学生募集停止
応用数理工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成7年度	同上	平成27年度から学生募集停止
農学部									
生命環境農学科	4	220	—	880	学士 (農学)	1. 02	平成29年度	鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地	平成29年度から学生募集停止
生物資源環境学科	4	—	—	—	学士 (農学)	—	平成11年度	同上	平成29年度から学生募集停止
共同獣医学科	6	35	—	210	学士 (獣医学)	1. 03	平成25年度	同上	平成25年度から学生募集停止
獣医学科	6	—	—	—	学士 (獣医学)	—	昭和24年度	同上	平成25年度から学生募集停止
<大学院>									
持続性社会創生科学研究科									
地域学専攻	2	20	—	40		0. 62	平成29年度	鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地	
地域創生コース	2	10	—	20	修士 (地域学)	0. 45	平成29年度	同上	
人間形成コース	2	10	—	20	修士 (教育学)	0. 80	平成29年度	同上	
工学専攻	2	165	—	330	修士 (工学又は学術)	1. 21	平成29年度	同上	
農学専攻	2	46	—	92	修士 (農学)	0. 97	平成29年度	同上	
国際乾燥地科学専攻	2	20	—	40	修士 (農学又は学術)	0. 97	平成29年度	同上	
地域学研究科									
地域創造専攻	2	—	—	—	修士 (地域学)	—	平成19年度	鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地	平成29年度から学生募集停止
地域教育専攻	2	—	—	—	修士 (教育学)	—	平成19年度	同上	平成29年度から学生募集停止
医学系研究科									
修士課程									平成6年度、医学研究科から名称変更
臨床心理学専攻	2	6	—	12	修士 (臨床心理学)	1. 24	平成21年度	鳥取県米子市西町86番地	
博士課程									
医学専攻	4	30	—	120	博士 (医学)	1. 04	平成16年度	同上	
博士前期課程									
生命科学専攻	2	10	—	20	修士 (生命科学)	0. 80	平成6年度	同上	平成16年度、生命科学系専攻から名称変更
機能再生医科学専攻	2	11	—	22	修士 (再生医科学)	1. 40	平成15年度	同上	
保健学専攻	2	14	—	28	修士 (保健学)	1. 10	平成16年度	同上	
博士後期課程									
生命科学専攻	3	5	—	15	博士 (生命科学)	0. 60	平成8年度	同上	平成16年度、生命科学系専攻から名称変更
機能再生医科学専攻	3	7	—	21	博士 (再生医科学)	0. 32	平成15年度	同上	
保健学専攻	3	4	—	12	博士 (保健学)	1. 50	平成20年度	同上	
工学研究科									
博士前期課程									

機械宇宙工学専攻	2	-	-	-	修士 (工学)	-	平成20年度	鳥取県鳥取市湖山町 南4丁目101番地	平成29年度から学生 募集停止
情報エレクトロニクス専攻	2	-	-	-	修士 (工学)	-	平成20年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
化学・生物応用工学専攻	2	-	-	-	修士 (工学)	-	平成20年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
社会基盤工学専攻	2	-	-	-	修士 (工学)	-	平成20年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
博士後期課程									
機械宇宙工学専攻	3	6	-	18	博士 (工学)	0.38	平成20年度	同上	
情報エレクトロニクス専攻	3	6	-	18	博士 (工学)	0.44	平成20年度	同上	
化学・生物応用工学専攻	3	4	-	12	博士 (工学)	1.08	平成20年度	同上	
社会基盤工学専攻	3	5	-	15	博士 (工学)	0.40	平成20年度	同上	
農学研究科									
修士課程									
フィールド生産科学専攻	2	-	-	-	修士 (農学)	-	平成21年度	鳥取県鳥取市湖山町 南4丁目101番地	平成29年度から学生 募集停止
生命資源科学専攻	2	-	-	-	修士 (農学)	-	平成21年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
国際乾燥地科学専攻	2	-	-	-	修士 (農学)	-	平成21年度	同上	平成29年度から学生 募集停止
連合農学研究科									
博士課程									
生産環境科学専攻	3	8	-	24	博士 (農学)	1.25	平成30年度	鳥取県鳥取市湖山町 南4丁目101番地	
生命資源科学専攻	3	7	-	21	博士 (農学)	0.71	平成30年度	同上	
国際乾燥地科学専攻	3	4	-	12	博士 (農学)	0.75	平成30年度	同上	
生物生産科学専攻	3	-	-	-	博士 (農学)	-	平成元年度	同上	平成30年度から学生 募集停止
生物環境科学専攻	3	-	-	-	博士 (農学)	-	平成元年度	同上	平成30年度から学生 募集停止
生物資源科学専攻	3	-	-	-	博士 (農学)	-	平成元年度	同上	平成30年度から学生 募集停止
国際乾燥地科学専攻	3	-	-	-	博士 (農学)	-	平成21年度	同上	平成30年度から学生 募集停止

(注)・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。

・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。

※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。

※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。

・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。

・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。

・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。

・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「一」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<連合農学研究科 国際乾燥地科学専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 担当授業科目名
専	教授	山本 定博 (57) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導
専	教授	辻本 壽 (59) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導
専	教授	山中 典和 (59) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導
専	教授	恒川 篤史 (57) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導
専	教授	藤巻 晴行 (48) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導 国際乾燥地科学特論Ⅱ
専	教授	緒方 英彦 (48) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導 国際乾燥地科学特論Ⅰ
専	教授	明石 欣也 (49) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導
専	教授	猪迫 耕二 (54) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導 国際乾燥地科学特論Ⅰ
専	教授	山田 智 (51) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 担当授業科目名
専	教授	山本 定博 (57) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導
専	教授	辻本 壽 (59) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導
専	教授	山中 典和 (59) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導
専	教授	恒川 篤史 (57) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導
専	教授	藤巻 晴行 (48) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導 国際乾燥地科学特論Ⅱ
専	教授	緒方 英彦 (48) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導 国際乾燥地科学特論Ⅰ
専	教授	明石 欣也 (49) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導
専	教授	猪迫 耕二 (54) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導 国際乾燥地科学特論Ⅰ
専	教授	山田 智 (51) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導

【平成31年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 担当授業科目名

【平成32年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 担当授業科目名

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	遠藤 常嘉 (49) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験
専	教授	一戸 俊義 (53) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導 国際乾燥地科学特論Ⅱ
専	教授	増永 二之 (50) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導 農学特論Ⅰ
専	教授	荊木 康臣 (54) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導
専	准教授	木村 玲二 (48) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導 国際乾燥地科学特論Ⅰ
専	准教授	安田 裕 (64) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導
専	准教授	清水 克之 (46) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導 国際乾燥地科学特論Ⅱ
専	准教授	Nigussie Haregeweyn Ayehu (45) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	遠藤 常嘉 (49) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導
専	教授	一戸 俊義 (53) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導 国際乾燥地科学特論Ⅱ
専	教授	増永 二之 (50) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導
専	教授	荊木 康臣 (54) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導
専	教授	佐藤 利夫 (63) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導
専	准教授	木村 玲二 (48) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導 国際乾燥地科学特論Ⅰ
専	准教授	安田 裕 (64) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導
専	准教授	清水 克之 (46) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導 国際乾燥地科学特論Ⅱ 科学コミュニケーションⅠ
専	准教授	Nigussie Haregeweyn Ayehu (45) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導

【平成31年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

【平成32年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 担当授業科目名
専	准教授	齊藤 忠臣 (41) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験
専	准教授	西原 英治 (49) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 農学特論Ⅱ
専	准教授	安 萍 (48) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験
専	准教授	黒崎 泰典 (48) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験
専	准教授	兵頭 正浩 (37) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験
専	准教授	谷口 武士 (38) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験
専	准教授	衣笠 利彦 (42) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験
専	准教授	鈴木 賢士 (49) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 担当授業科目名
専	准教授	齊藤 忠臣 (41) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験
専	准教授	西原 英治 (49) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験
専	准教授	安 萍 (48) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験 国際乾燥地科学教育指導
専	准教授	黒崎 泰典 (48) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験
専	准教授	兵頭 正浩 (37) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験
専	准教授	谷口 武士 (38) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験
専	准教授	衣笠 利彦 (42) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験
専	准教授	鈴木 賢士 (49) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験
専	准教授	Peng Fei (34) <平成30年 4 月> 海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験

【平成31年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 担当授業科目名

【平成32年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 担当授業科目名

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	助教	伊藤 健彦 (48) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験
専	助教	佐藤 邦明 (42) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験
専	助教	宋 相憲 (39) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験
兼任	教授	伊藤 真一 (61) ＜平成30年 4 月＞
		農学特論Ⅰ
兼任	教授	児玉 基一朗 (58) ＜平成30年 4 月＞
		科学コミュニケーションⅠ 科学コミュニケーションⅡ
兼任	教授	伊藤 康宏 (61) ＜平成30年 4 月＞
		生産環境科学特論Ⅰ
兼任	教授	高橋 肇 (55) ＜平成30年 4 月＞
		生産環境科学特論Ⅰ
兼任	教授	長澤 良太 (62) ＜平成30年 4 月＞
		生産環境科学特論Ⅱ
兼任	教授	竹松 葉子 (52) ＜平成30年 4 月＞
		生産環境科学特論Ⅱ

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	助教	佐藤 邦明 (42) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験
専	助教	宋 相憲 (39) ＜平成30年 4 月＞
		海外実習 国際乾燥地科学特別演習 国際乾燥地科学特別実験
兼任	教授	伊藤 真一 (61) ＜平成30年 4 月＞
		農学特論Ⅰ
兼任	教授	児玉 基一朗 (58) ＜平成30年 4 月＞
		科学コミュニケーションⅠ 科学コミュニケーションⅡ
兼任	教授	伊藤 康宏 (61) ＜平成30年 4 月＞
		生産環境科学特論Ⅰ
兼任	教授	高橋 肇 (55) ＜平成30年 4 月＞
		生産環境科学特論Ⅰ
兼任	教授	長澤 良太 (62) ＜平成30年 4 月＞
		生産環境科学特論Ⅱ
兼任	教授	竹松 葉子 (52) ＜平成30年 4 月＞
		生産環境科学特論Ⅱ

【平成31年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

【平成32年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
兼任	教授	河野 強 (55) ＜平成30年4月＞
		生命資源科学特論Ⅰ
兼任	教授	石川 孝博 (51) ＜平成30年4月＞
		生命資源科学特論Ⅰ
兼任	教授	山本 達之 (55) ＜平成30年4月＞
		生命資源科学特論Ⅱ
兼任	教授	阿座上 弘行 (51) ＜平成30年4月＞
		生命資源科学特論Ⅱ
兼任	准教授	岩崎 崇 (35) ＜平成30年4月＞
		農学特論Ⅱ
兼任	准教授	川口 英之 (59) ＜平成30年4月＞
		生産環境科学特論Ⅰ
兼任	准教授	堀之内 正博 (51) ＜平成30年4月＞
		生産環境科学特論Ⅱ

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
兼任	教授	河野 強 (55) ＜平成30年4月＞
		生命資源科学特論Ⅰ
兼任	教授	石川 孝博 (51) ＜平成30年4月＞
		生命資源科学特論Ⅰ
兼任	教授	山本 達之 (55) ＜平成30年4月＞
		生命資源科学特論Ⅱ
兼任	教授	阿座上 弘行 (51) ＜平成30年4月＞
		生命資源科学特論Ⅱ
兼任	教授	井上 憲一 (46) ＜平成30年4月＞
		農学特論Ⅰ
兼任	教授	小林 淳 (59) ＜平成30年4月＞
		農学特論Ⅱ
兼任	教授	有馬 二郎 (43) ＜平成30年4月＞
		科学コミュニケーションⅠ
兼任	准教授	岩崎 崇 (35) ＜平成30年4月＞
		農学特論Ⅱ
兼任	准教授	川口 英之 (59) ＜平成30年4月＞
		生産環境科学特論Ⅰ
兼任	准教授	堀之内 正博 (51) ＜平成30年4月＞
		生産環境科学特論Ⅱ

【平成31年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

【平成32年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
兼任	准教授	藪田 行哲 (43) ＜平成30年4月＞
		生命資源科学特論Ⅰ
兼任	准教授	清水 英寿 (42) ＜平成30年4月＞
		生命資源科学特論Ⅱ
兼任	助教	吉清 恵介 (38) ＜平成30年4月＞
		科学コミュニケーションⅠ 科学コミュニケーションⅡ

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
兼任	准教授	藪田 行哲 (43) ＜平成30年4月＞
		生命資源科学特論Ⅰ
兼任	准教授	清水 英寿 (42) ＜平成30年4月＞
		生命資源科学特論Ⅱ
兼任	准教授	吉清 恵介 (38) ＜平成30年4月＞
		科学コミュニケーションⅠ 科学コミュニケーションⅡ
兼任	講師	岩永 史子 (38) ＜平成30年4月＞
		科学コミュニケーションⅠ
兼任	助教	佐合 悠貴 (42) ＜平成30年4月＞
		海外実習 乾燥地科学特別演習 乾燥地科学特別実験

【平成31年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

【平成32年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼任教員を含む。）を黒字で記入してください。
- その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
- ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
- ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
- ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・平成30年4月、専任教員として佐藤利夫教授、Peng Fei准教授が就任。
- ・平成30年4月、兼任教員の吉清恵介助教が准教授に昇任。
- ・平成30年4月、兼任教員として井上憲一教授、小林淳教授、有馬二郎教授、岩永史子講師、佐合悠貴助教が就任。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) 一① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
4 名	3 名	4 名

- (注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) 一② 専任教員数

設 置 時 の 計 画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)
13	12	0	3	28	14	13	0	2	29	14	13	0	2	29
(14)	(13)	(0)	(2)	(29)						[1]	[1]	[0]	[Δ1]	[1]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数				
15	13	0		19	10	0		19	10	0				
(19)	(10)	(0)						[4]	[Δ3]	[0]				

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
- ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 - ・ 「**現在（報告書提出時）の完成年度時の計画**」には、「**現在（報告書提出時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) 一③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告書提出時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 - ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) 一④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{29}{28} = \boxed{103.57} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 一⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{29} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由				
1	助教	伊藤 健彦	必修	国際乾燥地科学特別演習	①	退職のため就任辞退（30）				
			必修	国際乾燥地科学特別実験	①					
			選択	海外実習	①					
合計（D）					後任補充状況の集計（E）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
1	人	必修	2	科目	必修	2	科目	必修	0	科目
		選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	3	科目	計	3	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
合計（F）										
後任補充状況の集計（G）										
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）			
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
1	人	必修	2 科目	必修	2 科目	必修	0 科目
		選択	1 科目	選択	1 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	3 科目	計	3 科目	計	0 科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-(3)合計(D)+(F)}{(2)-(2)設置時の計画(A)} = \frac{1}{28} = 3.57 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
合計				該当なし			後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員について**に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

大学の所見…就任辞退した専任教員の担当科目にあっては、他の専任教員が当該科目を担当するため、科目の未開講がないことから、
学生への影響はない。
学生への周知方法…履修の手引きの冊子類等により周知している。

- (注)・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (〇〇年〇〇月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年 2 月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年 2 月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年 2 月)			

(注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。

・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、**当該大学に付された意見を全て記入**するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。

・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。

・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常 2 月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<連合農学研究科 国際乾燥地科学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制 a 委員会の設置状況 鳥取大学農学部ファカルティ・ディベロップメント委員会 ※規則は別紙のとおり b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 平成30年5月以降開催予定あり c 委員会の審議事項等 ・授業改善のための基本方針及び実施体制に関する事項 ・教授方法等の改善のための支援に関する事項 ・FDの推進・啓発を目的とした講演会及び教職員の研修等に関する事項 ・その他FDに関する必要な事項 ② 実施状況 a 実施内容 平成30年5月以降開催予定 b 実施方法 平成30年5月以降開催予定 c 開催状況（教員の参加状況含む） 平成30年5月以降開催予定 d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 平成30年5月以降開催予定 ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況 a 実施の有無及び実施時期 有（平成30年5月以降予定） b 教員や学生への公開状況、方法等 ・教員への結果配布、大学WEBページに公開

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置初年度における研究科の運営については概ね計画どおりであるが、設置の趣旨・目的の達成のため、課題の克服や更なる教育改善に取り組んでいくこととしたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

未定

b 公表方法

未定

③ 認証評価を受ける計画

- ・ 平成33年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受ける予定

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（4）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表（予定）の有無 （ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 （ 平成30年 9月 1日 ）

（注）・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

- ・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

鳥取大学農学部ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

平成 23 年 11 月 21 日

鳥取大学農学部規則第 7 号

(目的)

第 1 条 鳥取大学農学部（以下「本学部」という。）に、鳥取大学学則第 24 条の 3 に規定するファカルティ・ディベロップメント（本学部の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究。以下「FD」という。）を推進するため、鳥取大学農学部ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任務)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項の実施を任務とする。

- 一 授業改善のための基本方針及び実施体制に関する事項
- 二 教授方法等の改善のための支援に関する事項
- 三 FD の推進・啓発を目的とした講演会及び教職員の研修等に関する事項
- 四 その他 FD に関し必要な事項

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 教務担当副学部長
- 二 生命環境農学科及び共同獣医学科から学部長が指名した教員 各 2 人
- 三 その他学部長が必要と認めた者

(任期)

第 4 条 前条第 2 号の委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前条第 3 号の委員の任期は、学部長がその都度定める。

(委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置き、教務担当副学部長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(会議)

第 6 条 委員会は、委員の 3 分の 2 以上の出席をもって開くものとする。

2 委員会の議事は、出席した委員の 3 分の 2 以上の同意をもって決する。

3 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、その意見を聞くことができる。

(報告)

第 7 条 委員長は、授業視察・授業参観及び授業改善計画書等 FD 活動の結果を学部長に報告する。

(指導・助言)

第 8 条 学部長は、前条の報告を基に、必要に応じ、教員に教育の内容及び方法の改善について指導・助言する。

(事務)

第 9 条 委員会に関する事務は、農学部教務係において処理する。

(雑則)

第 10 条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成 23 年 11 月 21 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。